

放置自転車だらけの駅前通り

駅前大通りの三越やヨドバシカメラ前の歩道に、所狭しと自転車が並びます。放置自転車の監視員が見回り警告票をつけている時もありますが、銀行や店舗に来る人たちの一時駐輪場を作らない限り解決にはなりません。駅前通りを気持ちよい空間にするために、街路樹やプランターの花壇などを生かし、歩道に整然と駐輪できるスペースを作るべきです。

中央銀座通りの自転車置きラック

綺麗で安全な商店街環境のため、市と商店会が共同で整備したバイク 16 台、自転車 220 台分(ラック式)の駐輪場があります。2 時間無料、その後も1 時間 10 円と使いやすい料金設定で利用

も定着してきています。二段のラック式ですが、タイヤを上げるスロープが急で女性には大変です。今後設置する場合はなだらかなスロープのものにしてほしいと思います。一方、パルコ正面入口の歩道は自転車があふれ、一時駐輪場の整備が必要です。

大型店には駐輪場の義務化を促進

平成 25 年 4 月から条例が改正され、これまで努力義務とされてきた大型店舗などへの駐輪場の設置について、指定区域(近隣商業地域・自転車など放置禁止区域等)では、大型店舗などを新築または増築する際は、基準に定め



千葉駅東口駅前大通の歩道

られた駐輪場の設置が義務化されます。市民ネットワークでは、これまでも既存の大型店舗や JR 千葉駅などへ駐輪場設置を店舗や市に要望してきました。来年度も引き続き千葉市の予算編成に対して、以下の 3 点を要望していきます。

- ・千葉駅前の第一駐輪場を、再開発事業を待たずに早期に立体化して、一時駐輪場を増やす。
- ・千葉駅前大通の店舗前の歩道に一時駐輪場を設ける。
- ・パルコ周辺の歩道に一時駐輪場を整備する。

千葉市シルバー人材センターを訪問して

露崎 達郎

● 増える長期間の就労希望

千葉市シルバー人材センターは、生きがいや健康、社会貢献を目的に、臨時的で短期間の軽易な仕事を会員に提供しています。登録者は 3,026 名で、昨年は約 2 万件の仕事依頼がありました。しかし会員の 30%は様々な理由で仕事に就いていません。生活のために仕事を求める高齢者が増加するなどセンターへの期待は大きく、ニーズは高まる一方です。

しかし市からセンターへの平成 24 年度の補助金は 1 億 1,400 万円で、前年度と比べ 6.8%削減されています。会員は年会費 1,800 円を支払っていますが実際は保険料 2,250 円を含め、一人当たりの経費は 3,560 円で、差額はセンターで負担しているそうです。センターの事業環境のきびしさ、制度面の遅れなどが課題となっています。

● 総力戦で需要開拓を

大震災、景気の不振で民間事業所からの受注は大幅に減少し、昨年度の契約金額は 10 億 4,360 万円で、前年度と比べ 6.4% 減少しています。さらに会員も前年度に対し 251 人も減少、就業率も悪化しています。

専門員による企業訪問の強化で仕事を開拓したり新たな独自事業を実施するなど、落ち込んだ就業率の回復が求められます。

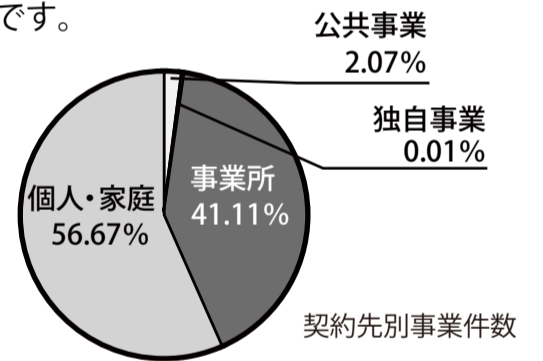
契約先	平 1 9 年度	平 2 3 年度	増減率%
公共事業	2.49	2.37	-4.9
事業所	7.50	6.35	-15.5
個人・家庭	1.40	1.62	15.7
独自事業	0.09	0.09	0
合計	11.49	10.43	-9.3

千葉市シルバー人材センター資料より

● 負傷事故への新たな制度設計が必要

発注者と雇用契約を結ぶ派遣事業もはじまり、会員の就業への選択肢は徐々に増えています。6 ヶ月の派遣期間が終わったあとも、ふたたび雇用契約を結ぶケースが出るなど就労の多様化が徐々に広がっています。

しかし一般には発注者との雇用関係がない(センターからの請負、委託という働き方)ため、会員が被扶養者の場合はけがをしても健康保険も労災も適用されないことがマスコミでも問題になっています。千葉市でも毎年 20 名前後の負傷事故が発生しており、同様の問題が発生する可能性があります。新たな制度設計が必要です。



市議会報告

2012 年 9 月 7 日～10 月 3 日 千葉市議会第 3 回定例会

生物多様性戦略の策定

多様な生物・生態系が存在することで、私たち人間の豊かな生活が成り立っています。生物多様性の保全は、現在、地球温暖化防止と並び環境問題の最重要課題として解決に向けた取り組みが求められています。

生物多様性基本法では、市町村は生物多様性地域戦略を定めるよう努めなければならないと規定されており、市民ネットでは市に対し戦略策定を求めてきました。

政令市のうち、横浜市、さいたま市など 8 市で策定済み、川崎市、浜松市など 6 市で策定中とのこと。県内では柏市、流山市が策定済み、野田市、市川市が策定中だそうです。こうした動きを受け、ようやく千葉市も策定の検討を始めました。

生物多様性をおびやかす原因には、開発による生物の生息域の減少や田畑や山林の荒廃、さらには外来種による影響などがあげられています。千葉県では 2008 年、全国に先駆けて生物多様性ちば県戦略を作りましたが、その過程に多くの県民が参加したことが高く評価されています。本市でも、計画の策定段階から市民がきちんと参加する取り組みを求めました。



市議会議員
湯浅美和子

中学生の部活動 地域人材のさらなる活用へ

中学生と保護者に部活のアンケートをとると、「楽しい」「ともだちができた」「体力・精神力がついた」など、高い評価だった一方で、「顧問が転勤すると廃部になったりかわいそう」「その種目の経験がない顧問に指導ができるのか」「先生の負担が大きい」など問題点が寄せられました。

そこで、教育委員会に、「教員の負担軽減はどのように行っているのか」「地域の人材活用はどのように進んでいるのか」を訊ねました。

「顧問の複数制、国のスポーツ人材活用実践支援事業・市の運動部活動指導者派遣事業の活用、及び土日の指導には教員特殊業務手当の支給により教員の負担軽減をはかっている」との答弁でした。渋谷区では全部の部活に地域の外部指導者を採用しており、教師も生徒も喜んでいるとのことでした。

「文化部も含め外部指導者がすべての部活動に配置できるようもっと力を入れたらどうか」の問いには「学校の要望に応えられるよう派遣事業の充実にも地域人材の有効活用をはかるよう指導する」との答弁を得ました。



市議会議員
山田京子